

１（１）学校と連携した地域文化の担い手の育成事業
①昔の農作業体験「稲刈り作業」

令和元年 9 月 12 日（木）

於：砺波市庄川町示野 424 の田んぼ

○稲刈り作業

手作業時代の農作業を体験することで、今のくらしを考える。また収穫作業を通して食糧になるまでの過程を体験する。

砺波市庄川町青島公民館他 3 館、庄川小学校の協力を得て、小学 5 年生を対象に、昔の農作業体験（稲刈り作業）を学習した。これまでの農作業のまとめとなる収穫作業で、子ども達だけでなく関係者全員で作業を行った。小学生：45 名、教員：5 名、公民館ボランティア 15 名、実行委員会：1 名

○内容・経過

これまで田植え、草取りの勉強をした田んぼの稲刈りころを迎えた。当日は田の中には雨水が残っており足場が悪かったが、1.5 畝余りの水田の稲を苅り切り、稲架がけした。また、事前に刈って干してあった稲束を足踏み脱穀機で実際に脱穀した。最初はおっかなびっくり作業していた児童たちも数回やると次第に慣れてきた。次に、脱穀作業で出てきた藁束を「によう」と呼ばれる固まりにして、上に藁でつくった「わらがい」をかけて雨露をしのぐようにした。最後に「わらがい」を作る作業にも取り組んだ。このように稲刈りから脱穀までの大まかな一連の作業を行い、砺波地方の農業と農民の智慧を体験した。

○小学生の質問と感想

「稲を刈った後の切り株はどうなるのですか？」

→これも、昔は小さく刻み、肥料にしました。切り株はやがて土に還って肥料になります

・最初は怖かったけど、だんだん上手に出来るようになって、うれしかった。自信がついた。

○稲刈り体験の評価

- ・刈り取った稲を束ねる名人、稲架がけの名人、わらがい編みの名人、足踏み脱穀機の名人など、各所に名人を配して作業が行われた。公民館の方も、半数は退職後に地域の活動に参加されたようで、子ども達と一緒に郷土の生活を見直そう、地域のために何かしようという気概で作業をしておられたようである。自分も改めてやってみて良かったという声も聞かれた。
- ・稲刈り・脱穀・藁仕事と盛りだくさんな内容であったが、小学校 5 年生が体格もそれなりに大きく、言葉の理解や地域に対する理解も進んでおり、一番吸収できる学年のように感じられた。
- ・「やらされた」ではなくて、「出来るようになった」と思っしてほしいとの言葉があって、温かい見守りの中で作業が進められ、好ましく感じられた。

○総括の評価と課題

一連の昔の農作業体験を終えて、小学校では「収穫の感謝の集い」が行われた。児童の体験発表とともに「昔と今の農作業の変化」をまとめたり、「低農薬、有機栽培が大切」などの提案する発表があったりして、半年にわたって小学生なりにいろいろ考えて体験活動をしたことを感じさせる内容であった。最後に作ったお米でおにぎりをいただくひとときであった。学校での農業体験が削減されている中で、こうした事業を今後も継続する方法を検討していきたい。

○写真（稲刈り他）

別添のとおり。

別添

